

品目:ブロッコリー / 中位葉～やや上位が黄化



品種:エンデバー

発生時期:2004.12.中～1.上 (収穫予定1.下～2月)

原因:PおよびMgの欠乏症。・・・酸性によるもの?

対応策:

- ・土壌のpHが低く、土壌中のCa, Mgとも少ない場合;
次作から苦土石灰を施用することにより, Ca, Mgを供給しpHを上げる。
- ・P, Mgの葉面散布。(しかし, 障害が発生しないような土づくりをすることが望ましい。)

補足:

- ①PとMgは相助的作用が強い。
- ②pHが低い(酸性)と, Pは不溶化し, Mgは流出する。
- ③酸性条件では, 土壌中のアンモニア態窒素は硝酸態窒素に変わりにくいため, 窒素吸収の点からも酸度を矯正することが必要。
- ④PもMgも古葉から欠乏症が出るのが定説になっているが, ナス等では, 肥大中の果実付近の葉にMg欠乏が出た事例もあり, 今回も花蕾の肥大に伴い, 近くの葉が欠乏症を起こしたことが考えられる。

葉身の無機成分量 ～ 被害の程度がひどくなると, P, Mgが減少 ～

農家		P	K	Ca Mg		Fe	Mn	Zn
				(%)				
A	正常	1.01	6.09	5.12	0.393	153	292	91.4
B	軽症	0.84	6.29	7.29	0.286	130	36	39.9
C	重症	0.65	6.30	5.01	0.204	137	128	84.8

土壌の化学性 ～ 苦土, 石灰とも重症圃場で低い～

農家		pH	EC (mS/cm)	CaO -- (mg/100g) --	MgO
B	軽症	5.5	0.10	218	31
C	重症	4.8	0.10	106	13
基準値				224	20

(CaO, MgOの分析は, 酢安振とう法(簡易分析)による。)

品目:コマツナ / 全体が黄化, 生育不良



品種:わかみ

発生時期:2005.5.上中旬

原因:窒素の欠乏症。・・・生の米ぬか施用による窒素の取り込みが生じた?

対応策:

- ・硝安など, 硝酸態窒素を含む即効性肥料を施用する。
(一度に多量を施用すると濃度障害を起こすので,
Nとして3kg/10a程度を1週間以上の間隔をあけて施用する。)

障害土壌の化学性

pH	EC (mS/cm)	硝酸態窒素 (mg/100g)	陰イオン濃度(me/100g)			
			Cl	NO3	PO4	SO4
5.8	0.45	0.8	0.99	0.05	0.05	1.38

☆ECが高いため, 土壌には十分硝酸態窒素があることが想定されたが
実際に硝酸態窒素を計測すると, その値は極めて少なかった。

➡ EC = 硝酸態窒素 ではない!!

※ 硫酸イオン等がECを上げている場合がある。